



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359

TEL 0993-22-6422

多様な新規就農者15名が就農！

今年6～7月に、南九州市と指宿市で、令和5年度に管内各市が確認した新規就農者を祝う「ニューファーマーの集い」が開催されました。今回は、南さつま市3名、南九州市9名、指宿市3名の20代～40代の15名が対象でした。

1 南薩地域（南さつま市，南九州市）

7月2日、南九州市知覧文化会館で、茶、野菜、米等栽培の新規就農者12名のうち8名が出席し、「南薩地域ニューファーマーの集い」を開催しました。

会では、各新規就農者が営農に対するそれぞれの思いを語るとともに、関係機関や指導農業士から、励ましの言葉や助言指導がありました。

新規就農者は「お茶の有機栽培のトップランナーになりたい」、「スマート農業を導入し、効率化を図っていきたい」等の夢や農業への思いを熱く語りました。

他業種からの転職や女性農業者の就農など多様な担い手の就農が見られ、今後の活躍が期待されます。



新規就農者を囲んで（南九州市）

2 指宿地域（指宿市）

6月24日、南薩地域振興局指宿庁舎で新規就農者を対象に「指宿市ニューファーマーの集い」を開催しました。

集いの開催は令和元年度以来5年ぶりで、野菜栽培の新規就農者3組4名が出席し、うち1組2名は夫婦での出席となりました。

当日は、打越指宿市長より「指宿市は野菜や観葉など誇れる品目があり、指導農業士会や関係者の支援が充実しているので経験や知識を積んで頑張ってもらいたい」との激励がありました。新規就農者も将来の夢や抱負を表明し、相互に交流が図られた集いとなりました。



新規就農者のあいさつ（指宿市）



指宿市長のあいさつ

みつばちを飼育している/飼育してみたい皆様へ

1 飼育には届出が必要です!

趣味として人気の高いみつばちの飼育ですが、**毎年届出が必要**なことはご存じでしょうか。

☆なぜ届出が必要であるのか

- ・はち同士の蜜源植物の取り合いを防ぐため
 - ・みつばち飼育者間でのトラブルを防ぐため
- ☆飼育を始めるにあたってお願いしたいこと
- ・近隣住民とのコミュニケーション

よくあるトラブル

刺傷事故

○ ミツバチが人を刺すこともあるため、周辺の人には飼育のことを伝え、理解を得ておきましょう。特に、春から夏にかけては分蜂防止対策を講じる等、適正な群数の維持に努める必要があります。

フンの被害

○ ハチのフンにより、周辺住民の洗濯物や車を汚してしまうことがあります。飼育場所の周辺には十分配慮しましょう。

スズメバチ

○ 秋になると、ミツバチを餌とするスズメバチが巣に飛来することがあります。スズメバチは攻撃性が強く、周辺の住民が刺されることがあるため大変危険です。

ふそ病やハロア症(ダニ)などの被害

○ 適切な管理を行っていないと、ふそ病やハロア症(ダニ)などの病気の温床となり、他の養蜂家にも影響を与えることがあります。マニュアル等を参考に適切に管理しましょう。また、異常が見られた場合は近隣の家畜保健衛生所で検査を受けてください。

はちの往来を見て不安に思う方やフンによる壁等の汚れに対する相談を毎年数件受けています。事前に飼育をすることを周りの方にお伝えするようお願いいたします。

2 届出の提出方法について

○提出書類：蜜蜂飼育届

様式は鹿児島県ホームページからダウンロード可能です。“鹿児島県 蜜蜂飼育届”で検索してください。なお、南薩地域振興局でお渡しすることもできます。

○提出期限：毎年1月31日〆切り

○提出方法：郵送, FAX, メール, 持参

○提出先：南薩地域振興局農政普及課 畜産振興係

〒897-0031 南さつま市加世田東本町8番地13

※届出であり、許可ではございません。

届出後でも設置場所の再検討や蜂群数の調整をお願いすることがあります。

○お問い合わせ先

南薩地域振興局農政普及課畜産振興係

電話：0993-52-1345 FAX：0993-52-1341

メールアドレス

minami-tikusansinkou@pref.kagoshima.lg.jp

自給飼料増産への取組

1 はじめに

指宿地域では省力化と環境への配慮の両立を目指し自給飼料増産に取り組んでいます。

2 年3作体系への取組

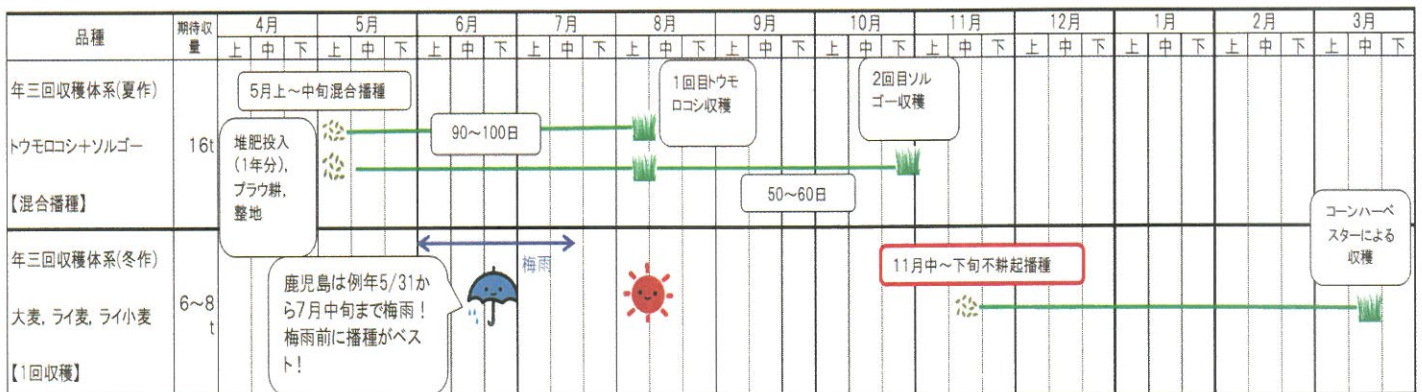
下の図のように夏作をトウモロコシとソルゴの混播、冬作の麦類の播種をディスクハローによる簡易耕体系(不耕起播種)にすることで、トウモロコシ、ソルゴ、麦類による3作体系を確立しました。

3 年3作体系のメリット

通常のトウモロコシ2期作体系に比べ、乾物収量は140%以上となり、ロール1個当たりの原価を25%削減した事例もあります。また、作付の工程を減らすことで、コスト低減及び省力化だけでなく、燃料の節減にもつながり、環境にも優しい体系となっています。

4 今後の課題

雑草対策と3作体系に適した品種の選定



南九州市が全国茶品評会で5年連続日本一

1 全国茶品評会とは

年に1回開催され、全国の茶産地から出品されたお茶の品質を競い合い、様々な茶種の日本一を決める大会です。

2 日本一を目指した取組

南九州市では全国茶品評会で好成績を収め、「知覧茶」のブランド力を高めるため、生産者と関係機関・団体と連携し、出品茶園の現地検討会等を数多く重ね、被覆や摘採・製造に臨みました。

3 日本一の榮譽に輝く

本年は被覆開始時期から雨天・曇天が続き品質低下が懸念されましたが、普通煎茶10kgの部で品質が最も優れる産地に贈られる産地賞を5年連続で獲得、個人でも農林水産大臣賞を受賞するなど、多くの生産者が上位入賞を果たしました。また、鹿児島県茶品評会でも産地賞、農林水産大臣賞を受賞しました。

4 さいごに

国内最大の茶産地で、結果が求められるプレッシャーの中、生産者と関係機関の努力により達成された産地賞が、更なるブランド価値向上に繋がることが期待されます。



来年度に向けた最終摘採指導

「せいめい」のセル苗定植1年目の倒伏・株張り対策

1 はじめに

本県では、抹茶の原料の「てん茶」や有機栽培への取り組みが増加しており、これらの適性が高い新品種「せいめい」の栽培面積が拡大しています。また、定植作業もセル苗を用いた機械化体系が広がりを見せています。

しかし、セル苗の定植1年目は、翌年まで枝条を伸ばす放任管理が多く、倒伏による欠株が課題となっています。また、「せいめい」は樹姿が半直立型で、株張りが小さいことから、早期の株張り対策が必要です。

そこで、県農業開発総合センター茶業部で開発された新技術を紹介します。

2 新技術の内容

(1) 倒伏防止対策

定植1年目の倒伏は、出荷時の剪枝の有無にかかわらず、5月下旬頃に剪枝（地上15cmの位置）することで軽減できます。

(2) 剪枝の効果

定植1年目の剪枝は、従来（放任管理）に比べ秋季の分枝数が増え、株張りが大きくなります（表1）。

表1 秋季の生育の違い

区	生存率 (%)	分枝数 (本)	株張り (cm)
セル苗・5月剪枝	99 a	8.8 a	34.4 a
セル苗・従来(放任管理)	92 b	7.3 b	27.3 b
慣行(地床苗)	100 a	6.5 b	30.3 b
分散分析	**	*	**

注1)生存率は、逆正弦変換後の数値で検定した

2)**は、1%水準、*は、5%で有意差あり

3)異なるアルファベット間は、TukeyのHSD検定により5%水準で有意差あり

(3) 留意点

【5月に剪枝できない場合】

生育状況や倒伏具合を見ながら、二番茶後の6月に剪枝の可否を判断する。

【より効果的な防風対策】

剪枝+ソルゴーの間作が望ましい。

クルクマを栽培してみませんか

1 クルクマとは

クルクマは、タイ原産の球根植物で、暑さに強く、ハスの花に似ています。クルクマは日持ちが非常に良く、特にお盆、秋彼岸の時期に人気で、近年注目度が高まっています。南九州市川辺町は、クルクマを30品種以上栽培する県内有数の産地です。



クルクマ

2 川辺町でのクルクマ栽培の特徴

川辺町のクルクマ栽培の特徴として以下のようなものがあります。

- ・ハウス栽培
- ・出荷時期は5月下旬～10月上旬
- ・球根代は約150～200円/球と初期投資はかかるが、その後、増殖した球根で栽培可能。

- ・農薬の散布回数が少ないなど管理作業の労力が少ない。
- ・近年単価が安定している（90円台）。
- ・事例 反収4.6万本（3年間平均）（定植球数約9,000球/10a）
- ・必要経費が少なく、収益性が高い。
- ・新規で栽培希望の方は、南九州市の農業公社で研修が可能

3 さいごに

クルクマは仏花としてだけでなく、フラワーアレンジなど様々な用途・場面で使用されています。収益性が高く、日持ちの良いクルクマを栽培してみませんか。

○お問い合わせ先
南薩地域振興局農政普及課
果樹花き普及係
電話：0993-52-1349
FAX：0993-52-1341



サツマイモ基腐病対策について(育苗編)

1 苗床の準備

- (1) 苗床は、前作残渣を持ち出し、採苗終了後は速やかに耕うんしましょう。
- (2) 基腐病に登録のある土壌消毒剤はバスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤（被覆期間の目安：地温15℃14～20日、20℃10～14日、25℃7～14日）及びキルパーがあります。
- (3) 消毒時は土壌中でのガスの拡散を促すため、適正な土壌水分（土壌を握りしめ、放したら数個に割れる程度）を確保しましょう。
- (4) 消毒期間中は、必ずビニール等で被覆しましょう。

2 育苗時の管理

- (1) 伏せ込み前に種いもを確認し、腐敗したいもを取り除きましょう。
- (2) 種いもの伏せ込み直後から萌芽までの床温は28～33℃、萌芽後の気温は昼間25～30℃、夜間15℃を目標に管理しましょう。かん水は床土が乾かない程度に温暖な日の午前中にしましょう。
- (3) 苗床に基腐病が発生した場合、種いもごと速やかにハウス外に持ち出し処分しましょう。
- (4) 苗は株の地際から5cm以上切り上げて採取し、ベンレート水和剤を用いて、採苗当日に必ず30分間苗全体の浸漬を行いましょう（バイオ苗を用いた育苗の場合も同様に消毒）。消毒は当日調製した農薬を用いましょう（次の日以降は使用しない）。
- (5) 採苗時のハサミはこまめに消毒（火炎滅菌または丁寧な水洗と拭き取り）しましょう。